

「バンザイ・クリフにて」

交流学科 2年 手嶋雄紀

サイパンで、最も印象に残った場所は「バンザイ・クリフ」だ。ここは、米軍に追いつめられ、行き場をなくした多くの日本人が絶壁から海に身を投げた場所で、多くの慰霊碑が立ち並び、花などが供えられている。

私は岬の先に立って、強い風を正面に受けながら目を閉じてみた。ジャングルをかきわけながら必死に逃げる人びとの姿が思い浮かび、後ろに迫る米軍の足音、銃声、人々の泣き叫ぶ声も聞こえるようで、恐ろしかった。

「生きたい」その一心で逃げてたどりついた島の最北端でできたことは、「飛び降りる」＝「死ぬ」という決意のみだった。人びとがどんな思いで崖から飛び降りたのか、想像がつかなかった。「バンザイ・クリフ」で私が実感したのは、「命」の大切さだ。私たちが、どれだけ贅沢で平和な生活を送っているか、改めて考えさせられる。

『崖』

石垣りん

(1920～2004・東京生まれ)

戦争の終り、
サイパン島の崖の上から
次々に身を投げた女たち。

美德やら義理やら体裁やら
何やら。
火だの男だのに追いつめられて。

とばなければならぬからとびこんだ。
ゆき場のないゆき場所。
(崖はいつも女をまっさかさまにする)

それがねえ
まだ一人も海にとどかないのだ。
十五年もたつというのに
どうしたんだろう。
あの、
女。

——「表札・1968年・思潮社刊」より——